

## Y15b アマチュア天文家の超新星発見はほんとうに重要か?

山岡 均 (九大理)

近年、プロによる系統的な探索もあって、超新星の発見数は飛躍的に伸びている。この状況下で、アマチュア天文家による超新星発見の重要性について、疑問を投げかける声がある。アマチュア天文家が発見した超新星は近傍銀河で明るいものが多く、貴重な研究材料を提供してくれているとの反論もあるが、この主張はこれまで定性的なものに留まっていた。そこで今回、個々の超新星が含まれる研究報告数を調査し、アマチュア天文家が発見した超新星の重要度を調べてみた。

大マゼラン銀河の超新星 1987A より後で、昨年までに出現・発見された超新星 (総計 2183 個、誤認 26 個を含む) について、Simbad Astronomical Database に載っている reference 数をすべて調査した。reference 数は新たな文献等によって増加するが、Database へのアクセスは2日間で集中的に行なったため、この間の増減は充分無視できるものとする。もちろん、ごく最近発見された超新星については、今後 reference 数が伸びるものもあると予想されるが、ごく重要なものに限ってはこの手法で充分捕捉できる。

その結果、reference 数が多いベスト 15 のうち、アマチュア天文家が発見した超新星は 9 個 (うち、日本のアマチュア天文家が第一発見したものが 3 個、独立発見が 1 個) にも及ぶことが判明した。Lick 天文台 Katzman 自動撮像望遠鏡 (=KAIT) が稼働した 1996 年以降に限っても、ベスト 10 のうち 4 個がアマチュア天文家発見のものである (KAIT は第一発見 1 個、独立発見 1 個のみ)。したがって、アマチュア天文家の超新星発見は、明らかにたいへん重要な研究対象となっており、今後とも発見を奨励称賛していくことが望まれる。